

振り返り（リフレクション）を大切に

9

26 AUG. 2025

小学校5年生 道徳

「人とICTの使い分け」が生む深い学び——研究会で見た授業デザインの工夫

友だちから、好きじゃないプレゼントをもらった。「うれしい！」とうそをついたら、友だちはよろこんでいた。



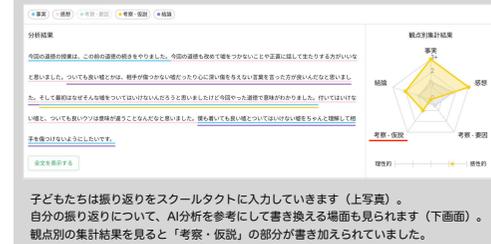
「エイプリル Fool」の嘘は良い

相手との関係が悪くならない嘘ならついで良い



冗談でも「ついでいい嘘」はない！

人を喜ばせたり楽しませたりする嘘は良い



高遠小学校の公開授業をもとに行われた研究会では、「コミュニケーションのメリハリ」を意識したICT活用の在り方が注目されました。特に、対面でのやり取りとICT画面での情報共有を意図的に使い分けることで、児童の思考の深化と学習意欲の向上が促されていた点が高く評価されました。

授業では、教師が「今は触らないで聞こう」といった明確な指示を出すことで、対面での発言とICT画面での視覚的な共有を効果的に切り替えていました。発言者の画面を共有し、他の児童はそれを見ながら聞くという構造により、視覚と聴覚の両面から理解が深まる仕組みが構築されていた。

また、スクールタクトの「閲覧モード」の活用も大きな成果を上げていました。授業の初期段階では、児童は他者の画面を見られない設定となっており、自分の考えに集中できる環境が整えられていました。その後、閲覧モードが解除されると、児童たちは自然と他者のワークシートを見始

め、比較や再考を通じて自らの思考を深めていきました。この段階的な設計が、質の高い学びを生み出していたと思います。

ICTの導入により、普段あまり発言しない児童も自分の意見を表現できるようになった点も重要です。タブレット上での記述は、他者に見られることを前提としたアウトプットとなり、児童の意識を高めると同時に、全員参加型の授業を可能にしていました。書くことが難しい児童も、他者の意見を「見る」ことで学びに参加できる点は、学習スタイルの多様性に対応する上で大きな意義があります。

このように、ICTは単なる情報提示の道具ではなく、対面のコミュニケーションを補完し、児童一人ひとりの思考と対話を深めるための教育的手段として機能していました。研究会では、こうした「人とICTの使い分け」が、これからの授業づくりにおいて重要な視点であることが再確認されました。



学力向上検討委員会開催の公開授業・研究会には市内の先生方が気軽に参加し学び合っています

振り返りの重要性

学習の連続性を生みだし、主体的な学びにつなげる

1. 学びの定着と深化

振り返ることで、児童は自分が何を学んだかを言語化し、理解を整理できます。

自分の考えや他者の意見を再確認することで、価値観や判断力が深まります。

2. 自己理解と自己肯定感の向上

「自分はこう考えた」「こんな気持ちになった」と振り返ることで、自分自身を見つめ直す機会になります。

自分の成長や変化に気づくことで、自己肯定感が育まれます。

3. 次の学びへの意欲づけ

振り返りを通して「もっと知りたい」「次はこうしたい」といった前向きな気持ちが生まれます。

学習の連続性が生まれ、主体的な学びにつながります。

4. 教師の指導改善にもつながる

児童の振り返りから、理解度や関心の度合いを把握でき、次の授業へのヒントになります。授業のねらいや活動の妥当性を検証する材料にもなります。

振り返りの工夫（道徳科の場合）

感情に焦点を当てる：「この場面でどんな気持ちになった？」「自分ならどうする？」

価値判断を促す：「この嘘はよかった？悪かった？その理由は？」

視点を広げる：「友達の見聞を聞いてどう思った？」「他の立場ならどう感じる？」

デジタル活用の例

タブレットで振り返りカードを記入 → クラス全体で共有

デジタル黒板でキーワードを可視化 → 意見の整理と比較

音声や動画で振り返りを記録 → 表現の幅を広げる

振り返りを授業の「まとめ」だけでなく、学びの「つなぎ」として位置づけることで、児童の道徳的な成長をより確かなものにできます。



今回紹介した授業についてはこちらに詳しく報告されています伊那市内の先生は全員見ることができます

スクールタクト「振り返りAI分析（ベータ版）」
児童生徒の学びを多面的に捉える

振り返り分析資料はこちらから閲覧できます



1. 児童の振り返りを5つの観点で自動分類

スクールタクトでは、児童が記入した振り返りを以下の5つの観点にAIが自動分類します。

事実：学習で行ったことや学んだこと

感想：感じたことや疑問

考察（要因）：物事が起こる理由や原因

考察（仮説）：自分の予想や見解

結論：学びのまとめや次の行動

これにより、児童自身が「どのように学んだか」を多面的に捉えやすくなります。

2. 学びの質の可視化と深まり

AIが分析した結果はレーダーチャートや散布図で表示され、児童やクラス全体の学びの傾向が一目でわかります。

児童は自分の振り返りを客観的に見直すことができ、自己調整学習の力が育ちます。

3. 教師の働き方改革に貢献

全員の振り返りを瞬時に分析できるため、教師の確認・評価の時間を大幅に削減。分析結果をもとに、授業改善や個別支援の方向性を素早く把握できます。

4. 児童の振り返り力の向上

実証研究では、振り返りAI分析を活用することで、児童の記述量や観測の幅が増え、より深い学びの言語化が可能になったという成果が報告されています。

他の児童の振り返りを見ることで、表現の工夫や視座の広がりも促されます。

5. 道徳科との親和性

道徳の授業では「心情の変化」や「価値の理解」が重要です。AI分析により、児童がどのような感情や考察をしているかを把握しやすくなり、道徳的価値の深まりを支援できます。

活用ポイント

導入前に観測の意味を児童と共有し、振り返りの質を高める。

分析結果を授業で共有し、クラス全体で学び合う文化を育てる。

個別支援や次時の指導計画に活用する。

高遠小学校 5年 宮下 快 先生の授業を推進センターでまとめさせていただきました

伊那市学校教育情報化ビジョン2024

探究的な学び

先進的な学び

個別最適な学び

協働的な学び

自立的な学び

子どもと共に未来を創る教員